

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(小64) 長崎市立(野母崎小)学校

1 教育目標

自ら学び、心身ともにたくましく、人間性豊かな実践力のある児童生徒の育成
 (教育理念) ~総がかりで、夢を抱き、志を育み、未来を拓く小中一貫教育~
 (校訓) 進取(進んで)・調和(共に)・創造(創る)

2 学校経営方針

- (1) 個を伸ばす集団づくり
- (2) 命の教育を根底においた基本的生活習慣の確立
- (3) 子どもをど真ん中に据え、総がかりで支え、感動のある学校
- (4) 夢・憧れ・志を育む学校
- (5) 信頼される学校
- (6) 保護者・地域等と連携した学校(コミュニティースクール)
- (7) 学力向上を図る学校(GIGAスクール構想の実現)
- (8) 特別支援教育の充実(個別最適な学び・協働的な学び)
- (9) 働き方改革は意識改革(働き方改革)

3 重点目標

- (1) 基本的生活習慣の確立(あいさつ、はきものそろえ、「あ・は・は運動」の推進、体力の向上)
- (2) わかる授業、個に応じた授業の展開(一人一台パソコンの有効活用、小中一貫教育を生かした授業改善)
- (3) 保護者・地域との連携(コミュニティースクールの充実)
- (4) 働き方改革による教育の質の向上
 (ノ一残業デーの小中統一、校務支援システムを活用した会議の短縮、児童生徒の成長・頑張りの共有)

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	90	87	90	児童に関していずれの項目も昨年度を上回った。保護者は微減ながらも高い水準である。今後も学校教育目標の具現化に向け、教職員が一丸となった教育活動を展開していく必要がある。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	77	86	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			90	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	88	81	100	年々児童の認識が高まってきているものの、まだまだ十分とはいえない。各学年で様々な心の教育が行われているので、それらを児童自身が「心を育てる学び」と認識できるよう価値づけ、意味づけする必要がある。同様に学校教育活動について発信することによって、保護者の認識についても向上させることができると考えられる。
		挨拶をよくしている	91	72	90	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	83	71	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	89	81	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	79	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	95	80	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	95	81	70	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94	83	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	92	83	90	家庭学習とキャリア教育について保護者の肯定的受け止めが伸び悩んだ。家庭学習については「まだまだできる」という期待の裏返しとも考えられる。児童への指導や励ましを継続させる。キャリア教育としてどのような教育活動を行っているのか、そのありようを発信していく必要がある。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	93	86	90	
		家庭学習の習慣が身に付いている	86	69	100	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	84	62	90	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		93				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	89	100	コロナ禍で体力低下が危惧されたが、「青潮トレーニング」を計画的に実施した結果、運動量を確保できた。猛暑で夏季に実施できない期間があったのは残念であった。基本的な生活習慣についてはPTAと連携し、学校保健委員会などで啓発・実践していきたい。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	73	73	100	
		体力向上に努めている	88	79	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	94	84	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	93	84	100	いずれの項目も概ね肯定的な回答が多かった。PTAや教育委員会、警察等と連携を図りながら児童の安全対策を行ってきた結果である。こまめなHPの更新は学校の様子を伝えるうえで有効であった。今後も地域、家庭、関係諸機関との連携を密にして、さらに信頼される学校を目指したい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	93	88	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	88	83	90	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	90	86	100	今後も創意工夫と共通理解を図りながら、さらによりよい教育環境を整えていきたい。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

〈成果〉

- 小中一貫のテーマで授業改善に取り組んだ結果、分かりやすい授業を行うことができた。
- 安全管理や情報提供、PTA・地域との連携を徹底した結果、「信頼される学校」として認識されている。
- 教育環境、職場環境が整っており、働きやすい職場である。

〈課題〉

- 基本的な生活習慣について児童の意識改革、保護者への啓発が必要である。
- いじめ防止の取組が保護者へ十分伝わっていない。児童、教職員の意識との隔りがある。
- キャリア教育の取組が保護者へ十分伝わっていない。児童、教職員の意識との隔りがある。

6 学校関係者評価

〈成果〉

- 学校は地域に開かれていて職員は地域に協力的である。また、地域も学校に協力的である。
- 児童生徒のあいさつがよくできていると、地域の声が挙がっている。
- 学校の教育活動を参観すると、キャリア教育は十分に行われている印象である。
- 児童生徒が穏やかで優しい。

〈課題〉

- 児童生徒が地域行事参加に消極的である。
- 児童生徒のあいさつが物足りないという地域もある。
- 基本的な生活習慣や学習習慣の定着は家庭の責任が大きい。地域と学校で啓発できればよい。
- 児童生徒に「夢に向かう」意識を定着させたいものである。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・あいさつについていわゆる「しつけ」的な指導に終始するのではなく、あいさつのよさやあいさつをされた人の気持ちを考えることで学校の内外を問わずあいさつができる児童を育成する。
- ・地域行事について、地域の願いを児童や家庭に伝えるよう心掛ける。そのために普段から各地域との連携を深めておく。
- ・基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図るために、児童への指導をこれまで同様に継続していく。併せて折にふれて家庭への啓発をこれまで以上に行っていく。
- ・これまで同様、各学年でキャリア教育の年間計画に沿った学習活動を進める。同時に児童にはどのような学習活動が将来にわたって活用できる基礎的・汎用的能力を育てているのか自覚できるようにする。同様に、さまざまな手段で家庭への啓発を行っていく。